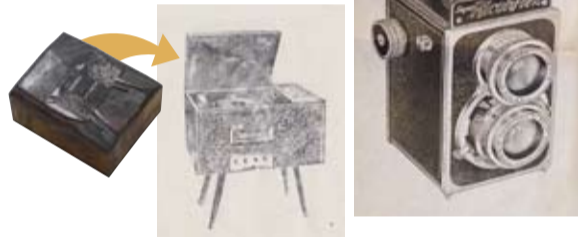




西洋木版の技術

昭和30年代の虎ノ門近辺には、名刺や広告印刷の業者もたくさんありました。この時代は活版印刷が盛んで、その代表的な仕事は名刺印刷などです。当時は「手キン」と呼ばれた手動式の活版小型印刷機が、名刺を刷る際に多用され、この印刷機の活字が足りなくなると、印鑑を彫る職人に文字の製作が依頼されました。先代の鐵五郎さんは、印鑑を彫る技術と木版の技術を併せ持っていて、柘植などの木の横断面に逆さまに字を書き、印刀で彫り文字を作りました。柘植の木は年輪が密なために大変固く、ピンセットでつまむほどの小さな文字も手彫りで作ることができたそうです。

西洋木版(左下)と
清刷(オーディオ機器(中央)と
二眼レフカメラ(右))



戦後、二眼レフカメラを始め、オーディオ機器などの商品が登場してくると、その広告に活版印刷物を活用したため、木版に彫刻の精密な技術を駆使した商品画像を彫る需要が出てきました。これらの木版は洋木版(西洋木版)と呼ばれ、これに応えたのが鐵五郎さんを始め、洋木版も彫れる職人たちでした。鐵五郎さん創作の洋木版には、「花王」の石けんや酒造会社「サントリー」の広告などがあり、一つの注文に2ヶ月以上かかる、手で彫ったとは信じがたいほど大変精巧なものでした。日本の職人による日本ならではの芸術です。写植印刷やパソコンなどが普及する以前には多くの職人がいましたが、今ではどのように彫られたのか分からず、印刀も彫られた洋木版も、戦前のものを含めておおむね無くなってしまいました。

石田家のお宝となった当時の洋木版。そのほか、「清刷」という、発注者に校正してもらったために見せたという印刷物も現存していました。雁皮紙に美しい刷り上がりの清刷を前に、「印刷インクで刷る職人もいないため、このような仕上がりをみることはもうないでしょう。この技巧を本当によくやったと思います。もう職人もおらず、木版の字入れの手彫りは絶えていると思います」と石田さんは回顧していました。

* * *

再開発が続く虎ノ門。「新しい動きを見せるふるさとの将来が楽しみ」と端正な笑顔で語ってくれた温故知新の人、石田隆一さんにお目にかかれて、幸せなひとときを感じました。

【文】早川由紀 取材 森明、早川由紀

●取材協力
有限会社 石田印房 石田隆一さん

Information

石田印房
虎ノ門1-12-12 TEL 03-3501-9080

外堀通り、虎ノ門駅から芝教会に向かって2分ほどにある石田印房は、琴平町(現在の虎ノ門一丁目)に先々代が大正13年(1924)に創業し、先代の石田鐵五郎さん、現当主の隆一さん、そして後継者のご子息たちとともに印鑑、表札、ゴム印などを扱う印章業を92年間続けています。石田さんの2人のご子息は、7年以上の実務経験と高い技術力を求められる国家検定試験に受かった、厚生労働省認定一級印章彫刻技能士です。

ふるさとは琴平町

石田さんは生まれも育ちも「琴平町」。戦時中、那須に学童疎開した以外はずっとこの地で過ごしてきました。「私にとってふるさとは琴平町です」との力強いお言葉。20年ほど前、虎ノ門の再開発事業に巻き込まれ、創業の地を離れる話が出ました。しかし、石田さんは「琴平町」にこだわり、首を縦には振りませんでした。縁あって、同じ虎ノ門一丁目の現在地に移転が決まったのは7年ほど前のことです。

この辺りは官庁が多く、役所の事務印や社印の注文が多くありました。昔は、官庁から発注があると、夜なべして翌日には届けていました。石田さん自身も、お得意様の依頼を受けたときには、喜びとともに責任を感じ、職人として精一杯努めたそうです。ビジネス街のイメージが強い虎ノ門で暮らす人々の、まちへの深い思い入れを感じました。

印鑑について

職人が作った一つ一つの印鑑は、手彫りならではの味や表情があり、一生大切にしたいと思えるものです。手仕事は、職人によって味わいが違うことも魅力です。ご子息についても「長男は丸みを帯びた線が、次男は正確な線の取り方がそれぞれ特徴です」と石田さんが話してくれました。

印鑑を彫る書体はさまざまあり、風格のある印相体、篆書体、雅味のある古印体、隷書体、行書体などが挙げられます。「認印」としては古印体と呼ば

れる丸い書体が多いそうです。また、印材はいろいろな素材があり、彫刻などを施します。それを彫る職人の繊細な熟練の技によって作られる印章は、古今から実用と芸術が共存する豊かな文化の一つです。

今でも石田印房には、先代から受け継がれた貴重な石などの古い印材が大切に保管されています。たとえば、先代が収集した唐獅子の形をした竹印材。竹の節は年輪が密なため、印鑑の素材に適しています。自然石で、鉄筆でひっかいて彫ることができる蠟石という石材もあります。石は研磨するまで、中がどのようなになっているか分かりにくいので、印材彫刻が難しい素材の一つだそうです。部分的に赤い色素がある石材を鶴の頭に擬して彫りだされたものは希少価値があり、また、「鶏血」と呼ばれる、石全体に鶏の血のような鮮やかな赤色の模様が入った美しい印材も、大変な価値があるとされています。



印材は湿気に弱いため、保管するには木製の入れ物が大変便利だそうで、かつて地元の家具屋に特注して薬筆筒のような形に作ってもらったそうです。印章ケースには、ワニ革、牛革などがあります。また、印章は「肉が命」という石田さん。朱肉には、赤色と明るい印象となる黄色との2種類あり、植物の繊維に顔料と油を混ぜて作られます。

東京都計画事業環状第二号線 新橋・虎ノ門地区道路／再開発事業

株式会社大林組東京本店建築事業部品質管理部担当部長 井上隆夫さん 聞き書き3



虎ノ門ヒルズ屋上斜屋根鉄骨とタワークレーン



ナックルウォールイメージ



平成23年(2011)3月11日14時46分に東日本大震災が発生し、津波、福島第一原子力発電所の事故などが起こりました。

同年4月1日に虎ノ門ヒルズの建設が着工されました。虎ノ門ヒルズの超高層ビル建設施工には、安全管理や建物の品質管理のための多くの問題点とともに、東日本大震災による影響を受けて発生した労働力、ダンプカーなどの運搬車両、建設資材などの不足や、鉄筋、セメントを始めとする資材の放射線測定などの課題を乗り越えなければなりません。

逆打ち工法

虎ノ門ヒルズの建設がこの短期間で完了したのは、「逆打ち工法」を導入したからで、大林組はすでに高さ634mの東京スカイツリーをはじめ、数多くの超高層ビル建設で同じ工法技術による施工を経験しています。

この虎ノ門地区は、古くさかのぼれば縄文時代は

愛宕山が丘で、虎ノ門ヒルズの近辺は海辺であったようです。地盤は表層部が土と砂層で、地下約30m以下の底部が硬い砂礫層でできており、今でも愛宕山側から地下水の流れがあります。

「逆打ち工法」の取り組みは、まず、周辺の地盤沈下と工事区域への水の流入を防ぐために、敷地の外周に粘土とセメントを混ぜ、鉄骨を入れた壁を現場で造る山留壁工事を行います。次に、数多くの基礎杭を打ちこみましたが、以前ビルがあった所に基礎杭が残っていて困難があったそうです。続いて、1階の鉄骨鉄筋コンクリート床を先行して造ります。それから、高層部247mへの地上鉄骨建方を始めると同時に地下最深部分(地下5階下)まで掘削していきますが、地下部にはビル内に環2道路を建設するために、空間の大部分がそれに取られ、作業スペースが狭いという難点もありました。

上下の工事を1フロアごとに同時進行するのですが、上層部に向かう資材運搬用のタワークレーン4基の設置を平成23年12月に、加えて地下3階部分には天井クレーン式クラムシェルを取り付け、掘削しました。

タワークレーンJCC-720AH 4基

虎ノ門ヒルズの主体構造は、鉄骨造+鉄骨鉄筋コンクリート造+鉄筋コンクリート造です。タワークレーンは、鉄骨を始め重い建設資材をつり上げたり、移動させたりするために、超高層ビルの建設に欠かせません。クレーンはフロアクレーン、つまり本体の鉄骨構造体でクレーンの荷重を受け、クレーンの支柱と台座(基礎)を自ら引き揚げながら登っていく方式を採用しました。大林組のタワークレーンは、

21.5mの作業半径なら一度に32tのつり荷を揚げる力を備え、巻き上げ速度も改良、つり上げロープも長くし、安全の確保や作業効率向上のためにつり荷の回転を制御する装置(スカイジャスター)なども取り付けられていました。

タワークレーンを設置する際には、支柱と昇降装置、運転室、巻き上げ装置、ジブ(腕)とワイヤーロープを仕込みます。国家資格である「クレーン運転士」の免許を持ったオペレーターが弁当持ちで朝上り、夕方の作業終了まで降りず、運転室には操作レバーだけでなく、トイレ、エアコンなどいろいろと整備されています。また、大林組のタワークレーンは色鮮やかで、インパクトのある「パッションオレンジ」で支柱および全体を塗装。さらに、ジブも航空機の安全のために、高さ60m以上のものには赤白を交互に塗り、旗または表示物で存在を示すように定められています。ちなみに、大林組の現場作業もオレンジ色です。夜、作業が終わると、4台のタワークレーンの先端は、東京タワーと逆方向に向いて停止し、電波障害が起これないようにしていたそうです。

タワークレーンの解体に至っては、解体のために子どものクレーンを組み立てて、子どもクレーンの解体には、さらに孫クレーンを組み立てました。平成25年(2013)10月末に孫クレーンを残して、タワークレーンオペレーター、合図者(とび職)など、合計12名程で作業し順次解体され、最後は手作業で終了だそうです。

3次元計測システムを使った鉄骨柱芯出し

平成23年4月に本体工事が着工され、逆打ち支柱建込工事が開始されました。

虎ノ門ヒルズは1階に大空間などがデザインされているために、最上階まで重力に対して真っすぐの位置にある柱も存在しますが、環状2号線道路をまたぐためにY字型になった柱もあります。あわせて、地下でカーブする環2道路の上下線の中央帯に逆打ち支柱を打ち込むため、微妙に逆打ち支柱を回転させなければならず、実に困難でした。

虎ノ門ヒルズの構造上、特に「逆打ち支柱位置出し」は高い精度が求められ、杭の位置出し、通り芯出しが複雑で、かつ芯柱につながる梁の向きも平行直角でないために回転方向を指示する必要があります。通常は鉛直軸(重力方向)と水平軸で測量する測量機だけでは難しく、トータルステーションという3次元計測システムを用いて、2組の測量班が現場で杭芯を座標管理するのに、別々の方法で測量機と周辺建物に設けた8点の的の光波測定を行い、食い違いがないかをダブルチェックしました。逆打ちした支柱の位置は、ビル最頂上部で寸分の狂いもなかったそうです。

芯柱は強度、剛性などに優れたCFT(コンクリートを充填した鋼管)ですが、コンクリートの充填圧力が弱いと隙間が生じて柱としての強度が弱く、強すぎるとう鋼管が破断するという問題が起こります。施工するにあたって、充填コンクリートがCFT最上部の207mの高さに適正に届くかが課題でした。そこで実験のために、地上で水平換算642mにおよぶホース管を模擬的につなぎ、コンクリート充填テストをしました。さらに、芯柱の基礎はバイルドラフト基礎(場所打ち杭併用直接基礎)ですが、4本の基礎杭は、地上の2本分の柱をY字で1本にするために支持する荷重が大きく、通常の場合打ち杭では荷重を支えられないため、大林組が持つ技術の一つ、杭の支持力が大きくなるナックルウォール(拡底壁杭)を採用しました。

厳しい条件を解決する技術

井上さんは昭和45年(1970)日本万国博覧会(大



環2道路部分の逆打ち支柱と掘削

阪)で、多くの人が集まるお祭り広場や新進気鋭の建築家のデザイン建築に刺激を受け、大学で建築学を専攻しました。その後、大林組に入り、技術部門、国内現場を始めシンガポール、台湾などの海外現場、さらに工事管理部門長などを経験しました。浅草にある、炎をイメージしたオブジェが印象的なアサヒビールのスーパードライホールの建設を担当した際には、フランス人デザイナーのフィリップ・スタルク(1949-)によるデザインスケッチのみがFAXで送られ、そこから設計図や施工図を作成して施工するという難しい課題にも挑戦されたそうです。

虎ノ門ヒルズの超高層建物の建設施工は、地下内部に道路があり、逆打ち支柱の施工に高い精度を求められ、難しい条件が多かったそうです。「厳しい条件を解決するのが技術である」と井上さんは確信しています。

【文 ■ 森明】

- 取材協力 株式会社大林組東京本店建築事業部 品質管理部担当部長 井上隆夫さん
- 参考文献 東京都第二市街地整備事務所、東京都第一建設事務所：環状第二号線新橋・虎ノ門地区 再開発事業／道路事業 事業概要2015 中京新一著 「アースタイバー」p79 講談社 (株)大林組東京本店環二・皿街区工事事務所 工事概要説明資料(2013.03.14) 環状第二号線新橋・虎ノ門地区皿街区 新築工事 (株)大林組 解決！タワークレーンの謎！タワークレーン特設サイト www.obayashi.co.jp/towercrane/
- 資料提供 株式会社大林組(写真2枚、立面図)

芝地区 いきいきプラザ 交流編

芝地区の3つのいきいきプラザでは、交流に関するさまざまな活動を行っています。その一部をご紹介します。

アロマハンドマッサージで地域貢献 三田

「アロマハンドマッサージを学んでボランティアをやってみませんか?」というテーマのもと、講座を定期的に開催しています。全4回の講座



アロマハンドマッサージ

で、アロマセラピーとハンドマッサージのいろはをプロが教えてくれ、受講後は、さまざまなイベントや施設にてボランティア活動を行います。今年で3年目。現在は、約40名が登録しており、これからの活躍がさらに期待されます。

芝CC倶楽部との交流 三田

60歳以上の区民を対象に、区と明治学院大学が連携して行っている事業「チャレンジコミュニ



芝CC倶楽部によるまち歩き



子ども交差点

ティ大学」の卒業生が集まった、芝CC倶楽部との交流活動です。まち歩きや夏祭りなど、多種多様な取り組みと一緒に開催しています。

いきいき×子ども交差点 神明

いきいきプラザを利用する大人と、子ども中高生プラザの子どもたちとの定期的な多世代交流イベントの一つです。少人数で実施することで、コミュニケーションを密に図れるように工夫されています。

最近開催して好評だったのが「書道」。慣れ親しんだ人が多いこともあり、高齢の参加者が丁寧に子どもたちに教えている姿がとても印象的でした。同じ空間にしながら時をともにして、一緒に楽しむことの大切さを改めて感じるイベントです。



絵本づくりと読み聞かせ 神明

毎週木曜日に開催している絵本教室。「世界に一つしかないオリジナル絵本を作ろう!」をテーマに、絵を描くところから製本まで全てを教室で行っています。皆さん思い思いの絵本を作成して、「作るだけではもったいない」と、同じ施設にある保育園で読み聞かせをすることに。子どもたちは真剣な眼差しで聞き入っているそうです。

楽器を使った国際交流 神明

民族楽器(打楽器)を使ったワークショップを定期的に開催しています。講師は2人のガーナ人。楽器を深く知る現地の講師から直接学べるのは、非常に魅力的です。ただ習うのではなく、その後コンサートにも出演。わたしにとって、人前で演奏するのは恥ずかしくもありましたが、終わって



みると充実感でいっぱいでした。日本にいなから外国の文化を体験し交流できることは、新しい発見にもつながります。

高齢者在宅サービスセンターとの交流 虎ノ門

いきいきプラザに併設されている高齢者在宅サービスセンターを利用する人と、喫茶スペースで誕生日のお祝いをしたり、カフェコンサートを鑑賞したり、夏祭りやクリスマス会で一緒に歌うなど、交流を図っています。

このように、高齢者だけでなく、多様な世代を対象に、横への拡がりを目指した多彩な交流が行われています。ぜひ、いきいきプラザの交流イベントに参加して、「いきいきとした暮らし」をしてみませんか。

【文・写真 ■ 米原剛】



X'mas会虎ノ門デイサービス

Information

- 写真・資料提供 指定管理者：医療法人財団 百葉の会・東急コミュニティー共同事業体
- 三田いきいきプラザ 芝4-1-17 TEL 03-3452-9421
- 神明いきいきプラザ(プラザ神明) 浜松町1-6-7 TEL 03-3436-2500
- 虎ノ門いきいきプラザ(とらトピア) 虎ノ門1-21-10 TEL 03-3539-2941
- ホームページ http://www.torotopia.com/



入口

土に癒されてみませんか

都会の喧騒あふれる三田通りから、道一つ入ると、そこにはまだ昭和のレトロな雰囲気が残るまち並みがありました。ランドセルを背負った学校帰りの子どもたちの、はしゃぎながらバタバタと走り去る姿も見かけます。そんな懐かしい景色の中、目に映る鮮やかな若草色のれんが、うづまこ陶芸教室の目印です。

「うづまこ」という名前は、この陶芸教室の主宰である毛塚友梨さんの実家由来しています。毛塚さんは「蔵の街」として知られる栃



うづまこ陶芸教室主宰 毛塚さん

木県栃木市の出身です。市内には、江戸時代に物資輸送の面で、栃木市の発展を支えてきた巴波川が流れています。川のほとりを舟で遊覧する「巴波川舟行」は、栃木市の観光スポットの一つです。毛塚さんの父、養治さんは、益子焼きの修業を積んだ後に、巴波川にちなみ、うづま焼きの工房を開いたそうです。毛塚さんは子どもの頃から陶芸に慣れ親しんできました。つまり、うづま焼きの子ども→うづま子→うづまこ陶芸教室という訳です。

基礎から本場タイル陶芸まで 充実のメニューを丁寧に指導

うづまこ陶芸教室には、電動ろくろや手びねりを基礎から学べるコースのほかに、陶芸に興味はあるけど、ちょっと難しそうだなと思っている人にぴったりの「一日体験プラン」や、結婚披露宴で両親に感謝の気持ちを贈る



茶碗、皿、土鍋など、いろいろな作品が作れます

ための「ウェディングギフトプラン」、子どもたちの夏休みの宿題には「自由研究プラン」など、さまざまな体験プランがあります。また、ほかの陶芸教室にはない「タイル陶芸体験プラン」も。毛塚さんが東京藝術大学在学中に出会い結婚した、教室代表のティムール・サプーリさんは、ベルジャタイルの本場イラン出身。その彼がデザイン選びから絵付けまで丁寧に指導してくれます。

田町、三田、芝公園、赤羽橋—4つの駅から徒歩圏内という立地の良さから、仕事帰りや買い物の途中でも気軽に通うことができます。また、最近では「体験型デートスポット」として、カップルでの申し込みも多いそうです。

陶芸一日体験

いろいろなコースがある中で、「一日体験プラン」の「手びねりコース」を体験してきました。まず、手びねりで何が作れるのか。自分の作りたいものの形や大きさなど、でき上がりをイメージしながら、講師の野崎さんの丁寧な説明を聞き「抹茶碗」を作ることになりました。いよいよ製作開始です。ちょうどよい厚みになるように、土を均一に延ばします。それを型にかぶせて大きさを決め、表面やふちを整えながら、抹茶碗へと仕上げていきます。野崎さんのフォローもあり、思い通りの抹茶碗が作れました。これから乾燥・素焼きを経て、2週間



楽しんで作る癒しのアート

うづまこ陶芸教室は、自分のペースで作りたいものを自由な発想で作ることを大事にしています。講師の皆さんは、美術大学で陶芸を専攻して、現在もアーティストとして活躍中です。作品のベストな仕上がりを目指して、きちんとサポートしてくれます。毛塚さんは、「学ぶというよりは楽しんで遊ぶ。普段の忙しさから抜け出して土で癒される。でき上がった作品で長く楽しむことを体験してほしい」と話していました。

[文・写真 ■ 菊池弓可]

Information

うづまこ陶芸教室
芝3-29-11
TEL 03-6809-6363
●ホームページ <http://www.uzumakotougei.com/>



うづまこ陶芸教室代表ティムール・サプーリさんの作品 毛塚友梨さんの作品



一日体験教室の様子

おでん

心も舌もあたたかくなる 庶民の食彩

豆腐やこんにやくを長方形に切り、串に刺し味噌を付けて焼いたものを田楽といい、もともとは宮中言葉で、略しておでんと言うようになりました。庶民に広まったのは江戸中期頃。市中に多種の屋台があふれ、おでんも人気がありました。

今のおでんの原型となる、カツオ出汁としょう油、砂糖、みりんなどで煮込むようになったのは江戸末期頃です。明治になって大根、イモ類、ちくわぶなどが加えられるようになりました。

今やお祭りやパーティーなど、人が集まる場には欠かせないおでん。皆で好きなおでんだねをつつくのは楽しいものです。南極観測隊でも、氷上でのおでんパーティーが行われているそうです。

寒くなると出汁のしみた熱々のおでんが恋しくなりますが、一年中賑わっているのが新橋の赤レンガ通りにあるおでん専門店「新橋お多

幸」。初代の柿野光春は、銀座四丁目と光裏にあった「お多幸」で修業した後、のれん分けしてもらい、昭和7年(1932)に新橋一丁目で開業しました。ちなみに屋号の「お多幸」は、初代女店主、太田コウの名前から付けられたそうです。

平成20年(2008)に現在地へ移り、今の店主は3代目の柿野幹成さん。25歳で脱サラし、2代目のお父様の下で修業しました。「儲けよりも、長くお客様に愛されるように続けていくこと」という初代からの言葉を引き継いでいます。

地下にあるお店へと階段を降りて行くと、カツオ出汁のいい香りに歓迎され、気持ちが高まります。扉を開け、すぐ目に入るのがカウンターの前にある大鍋。その中では、たくさんのおでんが「おいしいから早く食べて」と言わんばかりに出番を待っています。特に注文が多いのが豆腐と大根。つみれは店でイワシの



名物おでんの中から

身から捏ねて作っています。一流の専門店から仕入れたそれぞれの食材をおでんだねごとに煮込むため、素材の良さが生きた格別な味わいです。

カツオ節とサバ節に日高昆布、濃口しょう油で作る出汁もまた、お多幸ならではの味付け。料理長の木下善亮さんは、初代とともに作り上げた伝統ある味を今も守り続けています。

おでん以外のお店へと階段を降りて行くと、カツオ出汁のいい香りに歓迎され、気持ちが高まります。扉を開け、すぐ目に入るのがカウンターの前にある大鍋。その中では、たくさんのおでんが「おいしいから早く食べて」と言わんばかりに出番を待っています。特に注文が多いのが豆腐と大根。つみれは店でイワシの

お酒は菊正宗のほか、全国から選りすぐったこだわりの地酒が常時6種揃っています。おでんとお酒がじんわり温めてくれる、日本の、庶民の味をじっくり味わいたいものです。

[文 ■ 千葉みな子 取材 ■ 千葉みな子、伊藤早苗 写真 ■ 米原剛]

Information

新橋お多幸
新橋3-7-9 川辺ビル地下1階
TEL 03-3503-6076

●参考文献
「たべもの起源事典」岡田哲・編 東京堂出版

増上寺 境界のにぎわい



歌川広重「江戸百景余興」 「芝神明増上寺」



貯金塚碑文「根気根気 何事も根気 実篤」

国内外を問わず、多くの人が訪れる増上寺。徳川家の菩提寺であり、江戸庶民からも親しまれた寺院の一つでした。歌川広重は、「江戸百景余興」として「芝神明増上寺」を描いています。

芝神明増上寺

絵中では、増上寺の参詣を終えたと思われる人々が、現在の大門通りを談笑しながら歩いています。その後ろには、これから修行に向かう僧の姿。絵の左側には、表門・中門(三解脱門)・本堂が一体となって描かれています。また、右側には芝大神宮が見えます。東海道に近いこの辺りは江戸時代、行楽地として大勢の人々が往来した場所です。

現在、三解脱門の左壁面には「重要文化財増上寺三解脱門修理記」を見ることができます。昭和45年(1970)12月から49年(1974)2月まで、都営地下鉄6号線(現在の都営三田線)建設工事が行われ、日比谷通りに地下23mにも

およぶ穴が掘られました。この掘削作業に際し、建造物の安全確保を図るため、三解脱門の上層部分を解体し地盤を強化した工事概要が記されています。大規模工事の結果、わたしたちは今でも創建当時の姿を見ることができるようになりました。

芝大神宮は、庶民の観光スポット

庶民の間では、親しみを込めて芝大神宮を「神明様」と呼んでいます。かつて境内には、芝居小屋があり勧進相撲興行も行われ、多くの人々が楽しみました。文化2年(1805)2月、ここで「め組の鷲」と「相撲とり四ツ車大八」との喧嘩があり、これを歌舞伎の演目として仕立てたのが「神明恵和合取組」です。歌舞伎ファンにはたまらない、人気のある芝居の一つです。

貯金塚

境内の右側の植え込みの中に「貯金塚」の碑があります。不動貯金銀行(のちのりそな銀行)の創業者であり、頭取だった牧野元次郎が



大門から眺めた三解脱門



鳥居の奥に陳座する本殿

貯金の大切さを伝えた記念碑です。元次郎の生き方に感銘した武者小路実篤は、「牧野元次郎」という伝記を昭和10年(1935)に発表しました。

平成3年(1991)頃、わたしは戦前に元次郎の秘書だったという方と会い、彼がどのような人物だったか聞いたことがあります。大変に実直で、「正直」を座右の銘にしていたそうです。校外施設として区内の小中学生などが利用する、港区立箱根二コニコ高原学園は、元次郎からの寄付金が契機となって創設されたそうです。また、不動貯金銀行本店がかつて、現在芝大門付近に位置する昭和電工株式会社の場所にあったことなどからも、元次郎は、芝地区に縁深い人物だったことが分かります。

江戸庶民のみならず、武士・大名など多くの人々が親しみ、幾度となく訪れた増上寺・芝大神宮周辺は、近代日本の実業家たちが輝かしく活躍した地でもあるのです。

[文・写真 ■ 清田和美]

●参考文献
「麻布区史」
「芝区誌」
「港区教育史 下巻」
「牧野元次郎」武者小路実篤 著 学芸社 昭和10年(1935)刊
「重要文化財増上寺三解脱門及び南北築垣・南北山廊保存修理報告書」増上寺復興事務局 昭和49年(1974)刊

朝活禅 東京グランドホテル の 坐禅会

出勤前に坐禅を行うことで、姿勢を調べ、呼吸を調べ、そして心を調える。朝の時間を有効に活用しようとする「朝活」が広く行われている中、曹洞宗総合研究センター主催の「朝活禅」を取材しました。

朝6時、早朝出勤の会社員の姿が見られる芝公園駅付近。月2回、3か月かけて行われる全6回の朝活禅は、芝公園駅から徒歩2分の東京グランドホテルで行われています。曹洞宗総合研究センター専任研究員の関水博道さんの案内で、参加者と同じプログラムを体験しました。

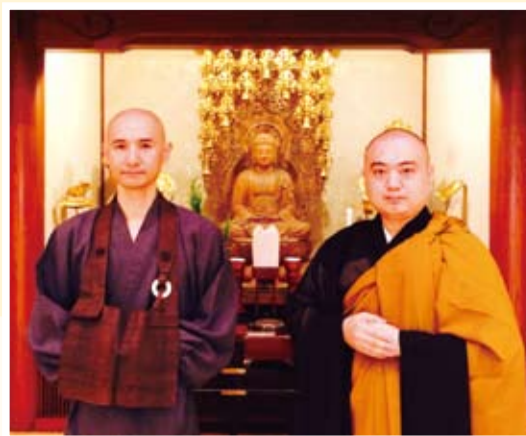
6時30分受け付け開始。7時になると全員が研修道場へ移動し、「禅語」の紹介から朝活禅は始まります。「今日は和顔愛語を。和やかな表情と慈愛に満ちた語り口。そういう



お坊さんをお茶の茶話会

次期開催「朝活禅 2015 冬」

日程：11月6日(金)、17日(火)、12月2日(水)、18日(金)、
平成28年1月8日(金)、19日(火)の全6回
時間：7時～8時(6時30分受付開始。8時30分まで自由参加の茶話会)
会場：東京グランドホテル5階
申し込み方法：右記ホームページから



小杉瑞穂さん(左)と関水博道さん(右)

人がいるだけでその場が和むことがあります。素直な気持ちになれば人に優しさを振り向けることが自ずとできるでしょう。坐禅の実践はそのことに気づかせてくれます」との説明を聞き、坐禅に向けて心を落ち着かせます。

朝活禅では毎回ごとにテーマを設けて指導しているそうです。取材した日は「呼吸の調べ方」について指導がありました。「呼吸を調えるためのポイントは、姿勢の正しさにあります。上半身をリラックスさせることによって深い呼吸ができます。姿勢が調ったら、一度大きく口からフーッと息を吐き、お腹の空気を全部出し切り息を吸います。しっかり息を吐ききれば自然に息を吸うことができ、以降は鼻呼吸をしていきます。息を吐く際は、ピーチボールを上から押すようなイメージでゆっくりと行います。呼吸の調べ方に気をつけながら、壁に向かって坐禅を実施。約20分間自身と対話した後、和室「微笑庵」へ場所を移し、修行体験として朝のお粥をいただいて8時に解散。自由参加による、お坊さんをお茶の茶話会もありました。

曹洞宗の坐禅の歴史は鎌倉時代まで遡るそうです。750年以上前から伝わる朝の坐禅



修行体験としての朝のお粥

を朝活禅と称し、平成22年(2010)11月、芝地区に出勤する人を対象に、「心の準備運動をしていただくために坐禅をおすすめしたい」という思いからスタートしました。初心者を中心に行われ、坐禅の基礎からお坊さんが指導してくれます。これまで毎年5月と11月に実施し、延べ200人を超える参加者がありました。また、「朝活禅シンプル」という坐禅会も毎年2回開催しています。こちらは、朝活禅に参加した経験者向けの内容だそうです。

参加者の1人をお話を聞くと、「第2回から参加し4年になります。会場の立地の良さに加え、ここでは凛として和やかな雰囲気なかで坐禅ができるので、心が落ち着きます。参加者を過度に緊張させない主催者の細やかな心配りに気持ちが安らぎ、継続して参加しています」とのこと。

「走り続けなければならない現役世代の方々へ、たまには立ち止まってゆっくりと自己を振り返り、また新たな気持ちで将来を見つめ直す機会になればと思います。朝活禅に取り組んでいます」と関水さん。自分自身と対話し、お坊さんとも会話することで、いつもと少し違う朝から始まる一日もいいかもしれません。

【文・写真 ■ 浜島孝啓】

Information

曹洞宗事務室内 曹洞宗総合研究センター
芝2-5-2 TEL 03-3454-7170
●E-mail asakatsuzen@sotozen.jp
●ホームページ
http://www.sotozen-net.or.jp/asakatsuzen/

芝にある風景

竹芝埠頭

絵・文 大野正晴

昔を思いながら、様変わりした風景を散策するのは楽しいものです。竹芝埠頭もその一つ。わたしが小学生の頃、この周辺は大きな原っぱがあり、岸壁を越えるとすぐ海でした。この原っぱは、子どもたちにとって格好の遊び場でした。家の古いアルバムの中に、子どもだった父がここで野球をしている写真があるので、その当時からそうだったのでしょう。わたしの青年時代は、夏になると竹芝桟橋からギターを持った若者たちが船に乗り、新島や式根島に行くのがブームでした。今もフェリーや東京クルーズを利用する人は多く、にぎわいがあります。この絵を描くため訪れた時は、クルーズ船で結婚式が行われていて、とても華やかでした。竹芝埠頭から東京湾を眺めると、レインボー

ブリッジやお台場が目の前に迫ってきます。夜景も美しいでしょう。また、反対方向にあるビル群とゆりかもめが通過する様子もとても素晴らしい風景です。竹芝埠頭を訪れると、この360°の景色を楽しんでいただけたと思います。今号で10回目を迎える「芝にある風景」。まだまだ名所がある芝地区を、これからも描き続けていきます。

●大野正晴



昭和26年(1951)生まれ。新橋で生まれ育ちましたので、特に港区、芝地区には愛着を持っています。この地域は歴史的名跡が多く、ニュースポットもいろいろあります。心に感じた風景を今後も描き続けたいと思っています。37年間、新橋にあるタカトク金物(株)に勤務。



芝の家



皆さんは「芝の家」を知っていますか。芝の家とは、芝地区総合支所と慶應義塾大学との協働で進めている「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点です。堅苦しいことは一切無く、第2の我が家のように、皆さんが安心して自由に使える場所として提供されています。散歩がてら、芝の家に立ち寄って日当たりの良い縁側に座り、ほっと一息。そんな訪れ方も、もちろん歓迎されます。

家の中を覗くと、赤ちゃんからお年寄りまでさまざまな人が、ちゃぶ台を囲み、気さくなスタッフとの談笑や打ち合わせ、情報交換など、皆それぞれの過ごし方を楽しんでいます。その中には、この芝の家や三田の家の発案者であり、プロジェクトの立ち上げに大きく関わった慶應義塾大学特任講師 坂倉杏介さんの姿があることも。

室内は昭和30年代頃のレトロな内装で、訪れた人々に懐かしい時代を思い起こさせます。



坂倉杏介さん

人と人とのつながりが豊かであった当時のような空間にいると、大人も子どもも自然と本音で語り合えるのが不思議です。東京タワーの下、古き良きニッポンへのタイムスリップは、都会の忙しさを忘れさせてくれるかもしれません。スタッフは、のんびり過ごす手助けをしてくれます。

芝の家は、交流の場としてだけでなく、何か困ったことがあったときの助け合いの拠点としても機能しています。地域の情報発信の基地としてイベントも数多く行われていて、中でも「いろはにほへつと芝まつり」は、たくさんの人が訪れる一大イベントです。焼きそばやビールを片手に、バザーやペーゴマ大会、工作コーナーなどに参加して、下町風情を感じながら楽しく過ごせます。誰でも参加することができ、今年10月18日(日)に行われる予定です。そのほかにも、大人のための恒例企画として、芝の家が属する北四国町会の杉山光敬会長と、ご近所のいろは食堂店主、田中明さんによるレコードコンサートなどがあり、わたしもぜひ行ってみたいと思っています。

イベントがないときの、日頃の芝の家では、



いろはにほへつと芝まつり



田中明さん(左)、杉山光敬さん(中央)

毎週水曜日と金曜日の正午から17時までの間は子どもたちが放課後にやってきて、遊んだり、勉強したりしています。大人のくつろぎの時間は、毎週水曜日と木曜日の11時から16時まで。毎週土曜日は正午から17時まで、家族などいろいろな世代が交流できる憩いの場に。駄菓子やコミュニティ喫茶(セルフサービスのお茶やコーヒーのあるコーナー)があり、昼食やおやつを持ち込みなどができるので、カフェのように利用することもできます。

芝の家を安らぎの場所にしているのは、訪れる人とスタッフ、学生たち、そしてご近所の人たちがつなぐ信頼の輪です。私たちが思い思いに過ごすことのできる素敵な空間は、日々生まれる新たな交流を優しく見守ります。たまには時忘れの芝の家に行つて、ゆるやかなひとときに出会ってみませんか。

【文 ■ 田岡恵美】

Information

地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト「芝の家」
芝3-26-10 TEL 03-3453-0474
火・木曜：11時～16時開室
水・金・土曜：12時～17時開室
日・月曜：閉室
●ホームページ http://www.shibanioe.net/

手芸ファンが集う西新橋のオアシス

「働く女性のための、癒しの場をつくりたかった！」そう話すのは、「ニットカフェ 森のこぶた」のオーナー喜多見理恵さんだ。

ニットカフェは、9.11後のアメリカで生まれた。カフェに集まり、おしゃべりしながら編み物をする中で、人々はテロによる心の傷を癒していったのだそうだ。

「以前はテレビ番組の制作プロダクションで忙しい日々を送っていましたが、ニット作家の黒ゆきさんのもとで編み物にも熱中していました。忙しいけど編み物がしたい、でも街中のカフェでは気が引けるし、よい場所がないかと探していた頃、ニットカフェの存在を知ったのです。カフェにも興味があった喜多見さんは、早朝カフェでアルバイトもしていたそう。働く女性に癒しの場が必要だということを、誰よりも理解していたのだろう。

早速行動を起こした喜多見さんはニットカフェの計画書を作り、金融機関から融資を得て、平成20年(2008)江戸川橋に「ニットカフェ



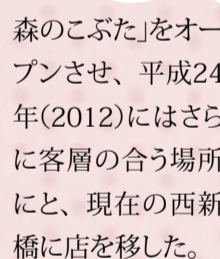
店のマスコット 幸せを呼ぶこぶた



喜多見さんとチューブ編みの作品

knit cafe

森のこぶた



タティングレース ワークショップ

「昔から自分の作品にサイン代わりのこぶたのイラストを描いていたので、『森のこぶた』という店名にしました。ヨーロッパでは、こぶたは幸福のシンボルです」と喜多見さん。拝見したニット作品は、チューブ編みという技法が使われ、女子美術大学出身らしくアート作品のようだ。穏やかな笑顔で話す喜多見さんが、お話を作品からは、好奇心と行動力にあふれる女性のパワーが伝わってきた。

「お店は朝7時から。朝は出勤前の男性が多いです。ランチは女性が中心で、午後2時からがニットカフェタイムとなり、お茶やお食事をしながら、手芸を楽しんでいた

だけです。ニットユニットのお二人 minamiwaさんを中心に、ニット、レース、織物などさまざまなワークショップを開催し、作品の展示会も行っています。また、紹介が紹介を生んで、森のこぶたでの交流も広がり、12月には、ニット、とんぼ玉、イラスト、ハッ

グ、ビーズなど、手芸作家の作品が一堂に集まる『手作りマルシェ』というイベントを開催する予定です。ぜひいらしてくださいね！」

リアンの復活や、フェルト、ビーズなど、最近の手芸ブームで幅広い層の人々が日々訪れるが、普通のカフェとしても利用することができる。編み物についての質問があれば、喜多見さんも講師として教えてくれるそうだ。

「食の安全にこだわりたい」と、ビルの屋上では野菜を栽培し、メニューにはその野菜を使ったサラダやキッシュ、サンドイッチがあるほか、ケーキも楽しめる。

「働いている女性は多いですが、皆さん疲れていらっしゃる。ぜひ『ニットカフェ 森のこぶた』を心のスイッチの切り替え場所として活用していただきたいです。また、今後は地域の方々ともつながりを持ち、何か面白いことができるようにと思っています。」

仕事に疲れた女性、そして男性も、「ニットカフェ 森のこぶた」で手仕事しながら、幸せタイムを過ごしましょう〜♪

【文 ■ 森田友子】

Information

ニットカフェ 森のこぶた
西新橋2-2-2 1階 TEL03-6699-1838
定休日 土・日曜・祝日
●ホームページ http://www.morinokobuta.com/

～東京女子学園高等学校と港区環境課のコラボレーション～ 港区役所本庁舎で「緑のカーテン」の育成を行っています

毎年、夏になると、建物を涼やかに覆ってくれる港区役所本庁舎の緑のカーテン。今年も6月から育成がスタートしました。

緑のカーテンとは、ゴーヤやアサガオなどのつる性植物を、建物の壁面や窓辺にカーテンのように育成することで、日差しを遮り、葉の蒸散作用による熱の低減効果で建物の蓄熱と室内温度の上昇を抑えることができるものです。

ゴーヤが織りなす本庁舎の緑のカーテンが例年と一味違うのは、東京女子学園高等学校の生物部の皆さんが、ゴー



大事に育てた苗をプランターに植え付け



東京女子学園高等学校生物部の皆さん

ヤを種から育ててくれたこと。6月16日には、すくすくと背を伸ばした苗の植え付けが行われました。ゴーヤを種から成長させるには、丁寧に世話し続けることが重要であり、そう簡単なことではありません。今では立派に育って風に揺れるカーテンの緑は、高校生たちの熱意と優しさの証しでもあります。区では、今後も緑のカーテンを通じた、高校生と児童施設や高齢者施設との交流などにも活動を広げることが検討しています。



お知らせ

芝地区総合防災訓練に参加しましょう！

10/4日

港区では、毎年秋に地区ごとの総合防災訓練を実施しています。芝地区では、初期消火訓練や、起震車による地震体験、応急救護訓練などに加え、親子で取り組める訓練も行います。また、芝地区内の各学校とも連携し、当日は学生の皆さんがボランティアとして参加してくれる予定です。いつ起こるか分からない災害に備えるため、この総合防災訓練に参加し、地域の方々とともに防災について考えてみませんか。

皆さんの参加をお待ちしています。

場所 都立芝公園4号地(みなと図書館となり)



御成門中学校の生徒がボランティアとして参加



慈恵看護専門学校の皆さんによる血栓予防体操



AEDを使用した応急救護訓練

問合せ先 芝地区総合支所協働推進課協働推進係
TEL 03-3578-3124

お知らせ

芝地区のまちづくり組織

芝地区に登録されているまちづくり組織

環状2号線新橋地区環境・まちづくり協議会

(登録日:平成20年(2008)5月15日)

活動範囲 新橋四丁目、西新橋二丁目地区内

芝一丁目まちづくり協議会

(登録日:平成26年(2014)5月8日)

活動範囲 芝一丁目地区

港区では、地域のみなさんによる自主的なまちづくり活動を支援する仕組みをつくり、まちづくりについて地域のみなさんが積極的に参加されることを応援しています。

まちづくりの相談は、協働推進課まちづくり推進担当が窓口になっています。

問合せ先 芝地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当
TEL 03-3578-3104

●本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。

伊藤早苗/菊池弓可/清田和美/桑原庸嘉子/齋藤恵里花/酒井郊美
田岡恵美/高井志保/千葉みな子/中川寛之/早川由紀/浜島孝啓
町田明夫/森明/森田友子/米原剛(五十音順 敬称略)

●今後の発行スケジュールは次の通りです。

H27.12.1発行(第37号)、H28.3.1発行(第38号)
H28.6.1発行(第39号)、H28.9.1発行(第40号)

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。
ウォーキングマップとしてご活用ください。

芝地区 MAP



1～20は旧町名由来の設置場所
※3は現在、欠番となっています。

- 1 石田印房 → P1
- 2 虎ノ門ヒルズ → P2・3
- 3 三田いきいきプラザ → P2・3
- 4 神明いきいきプラザ → P2・3
- 5 虎ノ門いきいきプラザ → P2・3
- 6 うづまこ陶芸教室 → P4・5
- 7 おでん屋「お多幸」 → P4
- 8 芝神明・増上寺 → P5
- 9 東京グランドホテル → P6
- 10 竹芝埠頭 → P6
- 11 芝の家 → P7
- 12 ニットカフェ森のこぶた → P7

お知らせ

臨時福祉給付金事業および子育て世帯臨時特例給付金事業のお知らせ

消費税の引き上げ(5%から8%)による影響を緩和する措置として、「臨時福祉給付金」と「子育て世帯臨時特例給付金」を支給します。

対象となる方には、9月下旬に港区からお知らせと申請書を送付する予定です。

臨時福祉給付金	子育て世帯臨時特例給付金
対象者 平成27年1月1日時点で港区に住民票がある人で、平成27年度分の区民税(均等割)が課税されていない人 ※区民税が課税されている人の扶養親族等、生活保護制度の被保護者は対象外です。	対象者 平成27年5月31日時点で港区に住民票がある人で、平成27年6月分の児童手当を受給している人 ※ただし、児童1人当たりの手当額が月額5千円の場合は対象となりません。
給付額 給付対象者1人につき6千円	給付額 対象児童1人につき3千円

今後のスケジュール

申請受付期間 9月下旬から平成28年1月中旬(予定)

その他 区内在住の公務員で平成27年6月分の児童手当を受給している人には、勤務先から「子育て世帯臨時特例給付金申請書」が配布されます。受付期間内に区に申請してください。
※詳しくは、広報みなと9月11日号でお知らせする予定です。

給付金に乗じた振り込め詐欺や個人情報の詐取に注意してください。

問合せ先 保健福祉課臨時福祉給付金担当
子ども家庭課子育て世帯臨時特例給付金担当
TEL 03-3578-2844・2845